

各 位

平成 30 年 4 月 16 日
 東京都港区六本木四丁目 4 番 8 号
 株式会社ワイズテーブルコーポレーション
 代表取締役会長兼社長 金山 精三郎
 (コード番号：2798 東証第二部)
 問合わせ先責任者 常務取締役執行役員 平尾 健治
 (TEL 03-5412-0065)

特別損益の計上及び平成 30 年 2 月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は平成 30 年 2 月期（平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日）におきまして、下記の通り特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

また、平成 29 年 10 月 12 日に公表いたしました平成 30 年 2 月期通期連結業績予想と本日公表の実績値において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容および金額（連結）

当社運営の 5 店舗につきまして、減損の兆候が認められたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 152 百万円を計上いたします。また、当社運営の「XEX DAIKANYAMA」につきまして、建物取り壊しによる閉店に伴う費用として 29 百万円を計上いたします。

以上により、第 3 四半期までの計上額を含め、特別損失の合計は 262 百万円となりました。

2. 平成 30 年 2 月期連結業績予想との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 14,065	百万円 149	百万円 216	百万円 95	円 銭 35.87
今回発表実績 (B)	13,972	△93	△9	△458	△172.36
増減額 (B - A)	△92	△243	△226	△554	—
増減率	△0.7%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 2 月期)	14,911	300	360	114	74.97

(差異の理由)

平成 30 年 2 月期の通期連結業績につきましては、カジュアルレストラングループを中心とした既存店舗における集客が低迷し売上が低調に推移したこと等の影響により、売上高では前回予想を下回る結果となりました。利益面では既存店舗の売上高の減少に加え、人件費の上昇の影響や特別損失の計上等により、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益において、前回予想を下回り、営業損失、経常損失および親会社株主に帰属する当期純損失を計上する結果となりました。

以上

本リリースに関するお問い合わせ先： 株式会社ワイズテーブルコーポレーション
経理・財務・IR グループ (TEL 03-5412-0065)